



京丹後市商工会だより

Kyotango City Society of Commerce & Industry

京丹後市商工会 京都府京丹後市峰山町杉谷836-1

●TEL.0772-62-0342 ●FAX.0772-62-3553

●URL:http://kyotango.kyoto-fsci.or.jp

●網野支所/TEL:72-1863 ●大宮支所/TEL:68-0038

●丹後支所/TEL:75-2222 ●久美浜支所/TEL:82-0155

●弥栄支所/TEL:65-3137(火・金のみ)

2018年
1月7日発行1
月号

Vol.122

年頭挨拶



新年のご挨拶



京丹後市商工会

会長 沖田 康彦

新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで
お健やかに新春をお迎えのことと心
からお慶び申し上げます。

昨年中は、商工会の事業運営に格
別のご理解とご協力を賜り、厚く御
礼申し上げます。本年も相変わらな
く、宜しくお願い申し上げます。

昨年は本商工会が合併してまよ
うど10年になる記念すべき年でありま
した。平成19年4月、京都府内の商

工会で最初の合併でした。会員の皆
様を始め、関係各位の皆様のおかげ
をもちまして10周年を迎えることが
できました。

ここに改めて感謝申し上げます。

昨年を振り返ると、4月
には京丹後市を含む丹後地域が「3
00年を紡ぐ網が織り成す 丹後ち
りめん回廊」として日本遺産に認定
されました。

また、京丹後市においては豊かな
食資源を活用し、美食のまちとして
国内外に発信することで、年間を通
した観光誘客や関連産業の振興を目
指す「美食観光」の取り組みをス
タートさせました。一方で、人手不
足、人材育成に対応するため、6月
には市内の事業所や企業の雇用の安
定を図り、市内産業の振興を推進す
るため、国、府、市内の経済・産
業・福祉団体・教育機関等が連携
し、「京丹後市地域雇用促進協議
会」が設立されました。同協議会

は、横断的な連携と協働による人材
確保・雇用対策事業を官民一体と
なつて総合的・体系的に展開してい
ます。

市民の力を結集し、飛躍の年に

京丹後市長 三崎 政直



新年おめでとうございます。

京丹後市商工会会員の皆さまをは
じめ、市民の皆さまにおかれまして
は、平成30年の新春をすがすがしく
お迎えのことと、お慶び申し上げます。

京丹後市商工会におかれまして
は、「経営発達支援計画」に基づき、
織物業、機械金属業、農林水産業、
観光業などといった本市経済を支え
る多様な産業の基盤整備のため、会
員事業者を伴走支援され、常に時代
の変化に柔軟に対応できる素地の形
成に大きく貢献されていることに改
めて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、2月の大
雪に始まり、8月、9月、10月の台
風襲来など自然災害に見舞われた年
でした。

とりわけ台風18号は、多くの事業

所が被災されたほか、民家や道路、
河川、海岸への大量のこみ漂着など、
市全域に甚大な被害をもたらしまし
た。幸いにも人的被害は無く安堵し
ておりますが、被災されました皆
さまに心よりお見舞い申し上げます
とともに、一日も早い復旧を最優先に
取り組んでまいります。

また、本市にとりまして最も重要
課題である「人口減少に歯止めを
かける」ため、第2次京丹後市総合計
画「基本計画」の実現に向け「ひと
づくり」「ものづくり」「魅力づくり」
などの重点項目に着手した年でもあ
りました。

とりわけ、「ひとづくり」におい
ては、次代を担う若者たちが自由に
アイデアを提案し、創業・事業化を
目指す場として、「京丹後未来ラボ」
がスタート。また、人手不足や若者
世代の市外流出、将来の人材確保に
資するため、「京丹後市地域雇用促
進協議会」を設立し、京丹後市の経
済と産業の発展につながる体制を整
えることができました。

「ものづくり」においても、20

20年の「丹後ちりめん創業300
年」を前に、4月には「300年を
紡ぐ網が織り成す丹後ちりめん回
廊」が日本遺産に認定され、地場産
業である織物業や機械金属業などの
ものづくり産業のさらなる発展に向
けて、大きな弾みとなりました。

一昨年10月に山陰近畿自動車道が
京丹後大宮ICまで延伸し、前年の
京都縦貫自動車道の全線開通との相
乗効果により、観光入込客数が2年
連続で219万人となりました。こ
の効果をさらに高めるためにも「魅
力づくり」においては、豊富な食材
を生かした美食観光を推進するため
に「美食のまちづくりワークショップ」
を設立し、コンセプトやビジョ
ン、具体的な戦略等の議論を始め、
市では、キャッチコピー「旬の京丹
後」やカニと波をデザインしたロゴ
マークをシンボルとして決定し、広
く活用を進めているところです。

京丹後市商工会におかれまして
も、昨年は合併10周年を迎えられ、
新たに昨年度の海外販路の展開支援
の取り組みを始められております。
本市は、光り輝く魅力的な人や地域
資源の宝庫だと感じています。市民
の皆さまの多様なアイデアや力を結
集し、着手してきた取り組みをさら
に充実させることで花を咲かせ、そ

様々な施策を地域の総合経済団体で
ある商工会が、小規模事業者のみな
さんへお知らせさせていただき、そ
れぞれの事業の状況に応じた施策の
活用を提案させていただいておりま
す。

今後とも人口減少・超高齢化とい
う我が国・地域が直面する大きな課
題に対して行政関係機関の皆様と一
緒になって取り組み、この地域がも
つ特徴、また個々の事業者が持つ強
みを活かした自立的持続的な地域経
済を創生していかなければならない
と存じます。

そのための支援組織として、市内
商工業者をはじめ、その従事者が思
う存分力を発揮でき、かつ創意工夫
で新しい市場を切り拓く挑戦できる
支援環境づくりをし、競争力のある
事業者育成、他地域に劣ることのな
い支援を尽くし、会員事業者とも
にその成果を共有できるように尽力
することにあります。

本年も、役員一同地域の総合経
済団体としての役割を深く認識
し、将来にますます希望の持てる活
気に満ちた誇りある地域と地域経済
とまちづくりの実現に尽力していま
します。

どうか本年も、よろしくお願い申
上げます。

明日の京都を描くため



京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめで
たうございます。

昨年を振り返って

京都府では、林田・荒巻府政以
来築き上げてきた社会基盤がいよ
いよ実を結ぶ時期となりました。
昨年4月に新名神高速道路の城陽・

八幡京田辺間が開通し、ついに京
都は京丹後市から木津川市まで高
速道路によってひとつに繋がりを
しました。

「海の京都」、「森の京都」と続き、
昨年は「お茶の京都」事業により、
南部地域全体に大変多くの人が訪れ
るとともに、北部地域では、美しい
絹織物の地「丹後ちりめん回廊」が
日本遺産に認定されるなど、観光面
でも過去最高の賑わいとなり、府域
全体が大きな盛り上がりを見せた一
年となりました。

また、文化庁の全面的京都移転
も正式に決定、移転場所も府庁の
警察本部本館に決まり、名実とも
に京都が「文化首都」と位置付け
られ、文化芸術立国に向け大きな
役割を担うことになった重要な節
目の年となりました。

しかしながら一方で、依然
我が国周辺で安全保障について大
きな緊迫感が続くとともに、少子
高齢化や東京一極集中の加速、子
どもの貧困など様々な課題が改め
て浮き彫りになった一年でもあり
ました。

未来を切り拓く鍵

こうした背景には、少子高齢化
や情報化、国際化の中で、家族形
態も含め社会の多様化が進展する
ことに対して、「地域の力」「自治
の力」が低下し、旧来の制度や考
え方では支えきれない局面が生ま
れてきたことがあげられると思い
ます。

特に近年では、様々な格差の問
題や孤立社会といわれる無関心時
代の到来も指摘される中、京都府
では、従来から地域力再生を掲げ、
地域の絆などの新しい地域づくり
の環境・土台を基に、半公半民の
公共員制度や地域の公民の生活機
関を集中化したコミュニティコン
ビニの整備、子ども食堂や居場所
づくりのためのこどもの城事業、
さらに高齢化時代に医療、介護、
福祉を連結させる地域包括ケアの
推進、女性活躍から障害のある方
の農業分野での活躍を支える農福
連携など、幅広く「共生社会」の
実現に向け取り組みを進めてまい
りました。

新しい時代へ

今年、「明治」への改元、そし
て京都府の設置から150周年に
あたります。当時、京都では、多
くの人や産業が東京へ移り、3分
の1の人口が減少したため、千年
にわたって都として栄えた京都は、
かつてない大きな危機に直面しま

した。

そのような激動の時代にあつて
も、京都府は、日本初の小学校（上
京27番組（柳池 小学校）や女学
校（新英学校および女紅場、盲学
校（京都府立盲学校）の開校、府
立医科大学の前身である医学学校を
療病院に付置、京都大学の前身で
ある第三高等中学校の大阪からの
誘致、同志社大学の設置許可など
人づくりを中心に府政を進め、さ
らに琵琶湖疏水の建設や経済界と
も連動した京都博覧会の開催で産
業の振興を図り、西陣織や茶業な
ど様々な分野で新たな取り組みを
進め、京都を復活させました。こ
れが京都府政の原点であります。

そうした先人たちの努力が今日
の京都の礎を築いてきたのであ
り、そこには、どんなに困難なと
きも未来に投資をして、未来のた
めに現代を生きる京都の気概があ
ります。

この150周年という節目を迎え
るにあたり、今の京都の基盤が形作
られてきた明治の時代を振り返り、
常に先進的な取り組みを続けてきた
先人たちの姿勢を受け継いで、新し
い人づくりと文化力づくりによって
京都の生き方が一層魅力あるもの
になるように、私たちは全力を挙げ
なければなりません。

京都には今、年間8700万人
もの観光客が訪れており、世界的
にも日本、そして日本文化のふる
さと・京都への関心が高まってい
ますが、2019年から3年連続
でラグビーワールドカップ、東京
オリンピック・パラリンピック競
技大会、ワールドマスターズゲー
ムズ2021関西と大規模な国際
大会が開催されます。

この機を捉え、「京都文化力
プロジェクト2016-2020」
をはじめオール京都で力を合わ
せ、京都から日本の文化を発信し、
大きな交流の渦が巻き起こるよ
う、全力を傾けてまいりたいと存
じます。

人と文化によって地域の資源、歴
史、伝統を活かし、人と人が支え
合う共生社会の実現により、地域の
力を再び取り戻し、新たな時代を切
り拓くため、共に歩んでまいりま
しょう。

私は、この4月で任期を全うする
予定ですが、この一年の、皆
さまのご健勝とご多幸を心からお祈
り申し上げ、新年のごあいさつとい
いたします。